

本校・西彼杵分教室では、学校評価として「保護者と教職員へのアンケート（学校関係者評価）」「各学部と各校務分掌部の年間の重点目標に対する評価（自己評価）」を行っている。これらの結果や成果、課題などを学校評議員会へ報告し、課題改善について助言等をいただき、次年度の教育活動等へ生かす。

4	十分達成されている（よく当てはまる）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に対して具体的方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態</li> <li>・具体的方策を実施中であり、漸次その成果を検証しつつある状態</li> </ul>
3	おおむね達成されている（どちらかといえば当てはまる）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善に向けて共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある状態</li> <li>・改善の必要性に対して理解があり、具体的方策に対して取り組もうとしている状態</li> </ul>
2	どちらかという達成されていない（あまり当てはまらない）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善の方向性はもっているが、共通理解が十分ではなく全体として停滞している状態</li> <li>・改善の方向性を探っている状態</li> </ul>
1	ほとんど達成されていない（まったく当てはまらない）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題意識をもってはいるが、手つかずの状態</li> <li>・現状に満足し、問題意識にまで考えが及んでいない状態</li> </ul>

## 1 教育活動について

○4段階の平均値が保護者（3.5→3.6）、教職員（3.4→3.5）ともに0.1上回った。

○保護者の評価について

- ・昨年度の数値と比較してほとんどの項目で上回り、また、全項目が3.4以上の数値であった。
- ・「8：学校は、「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。」（3.7→3.6）と「19：現場実習や進路開拓を十分に行っている。（高のみ記入）」（3.5→3.4）について、それぞれ0.1下回ったものの低い数値ではないと考える。
- ・全体的に「2：あまり達成できていない」及び「/：わからない」を選択した方が一定数いることから、日頃の教育活動や行事等について、保護者をはじめ外部への広報活動により一層取り組んでいくことが必要である。

○教職員の評価について

- ・昨年度の数値と比較してほとんどの項目で上回り、また、全項目が3.3以上の数値であった。
- ・「16：児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。」について、「2：あまり達成できていない」及び「/：わからない」を合算した数値が他の項目と比較して高かったことから、今後も継続した小学部段階からのキャリア教育、進路学習の推進が必要である。

## 2 教育環境について

○4段階の平均値が保護者（3.4→3.4）、教職員（3.2→3.3）で、昨年度より教職員が0.1上回った。

○保護者の評価について

- ・全3つの項目は3.4以上で、昨年度と比較して2つの項目で0.1上回った。
- ・コロナ禍以降、授業参観等来校する機会が増え、学習環境を実際に見ていただいた結果であると考え。教職員の毎月の安全点検や日頃の取組によるところが大きいと思われる。
- ・営繕、整備には予算との関係もあることから今後も事務室と連携を図り改善に取り組む。

○教職員の評価について

- ・全3つの項目は3.1以上で、昨年度と比較して2つの項目で0.1上回った。
- ・「20：安心安全な施設の整備に心がけている。」（3.3→3.5）は、0.2上回った。学校全体での意識の高まりの表れであると考え。
- ・「21：児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。」（3.3→3.2）は、0.1下回った。また、「2：あまり達成できていない」及び「/：わからない」を選択した方が一定数おり、自由記述欄に教材、教具の充実があげられていることから、今後も計画的に環境整備等を推進していくことが必要であると考え。

### 3 開かれた学校について

○4段階の平均値が保護者（3.3→3.3）、教職員（3.2→3.3）であり、昨年度と比較して教職員で0.1上回った。

○「23：学校公開など、地域の方が来校しやすい機会や学校行事を設けている。」はについて、昨年度はコロナ禍で評価項目から除外した。

○保護者の評価について

・全3つの項目は3.2以上で、昨年度と比較して1つの項目で0.1上回った。

・「24：PTA活動に参加しやすいよう配慮する」について、低い数値ではないものの保護者間の交流を求める意見もあった。次年度に向けてPTA執行部と参加しやすい体制づくりを進めている状況である。

○教職員の評価について

・全3つの項目は3.3以上で、昨年度と比較して2つの項目で0.1上回った。

・コロナ禍以降、行事等で保護者等が来校する機会が増え、また学級だより等での情報発信への意識の高まりの表れであると考え。

・コロナ禍以降、学校間や居住地の交流及び交流学習が活発になっており、これらとともに今後は地域の方々や関係機関等との交流や連携等をより推進していく必要がある。

### 4 総括

評価の総計（下図）は、教職員（3.2→3.4）、保護者（3.3→3.3）となり、保護者は昨年度とほぼ同様の結果となったが、保護者、教職員ともに平均が約3.3以上であることから、教育活動等について、一定の理解が得られ、学校目標をおおむね達成できているものと推察される。

「地域に開かれた学校」について、今後、保護者、地域の方々、関係機関等への理解・啓発、そして、連携を深めていくことがますます求められる。これまでの実績を継続しながら、次年度から具体的な取組を進めていくことが必要であると考え。

保護者の評価については結果を真摯に受け止め、また、教職員の評価や各学部等の自己評価も踏まえながら、今後も保護者や地域等に信頼される学校及び教育活動の充実を図るため教育課程のよりよい編成や専門性の向上などを推進していくことが重要である。

		1 教育活動		2 教育環境		3 開かれた学校		総計		
		R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	
全学部	教職員	3.50	↑	3.40	3.30	↑	3.20	3.40	↑	3.27
	保護者	3.60	↑	3.50	3.40	—	3.40	3.30	—	3.40
小学部	教職員	3.40	—	3.40	3.30	↑	3.20	3.40	↑	3.27
	保護者	3.50	△	3.60	3.30	—	3.30	3.20	△	3.43
中学部	教職員	3.30	△	3.40	3.20	—	3.20	3.30	—	3.30
	保護者	3.70	↑	3.30	3.50	↑	3.30	3.60	↑	3.23
高等部	教職員	3.50	↑	3.40	3.30	↑	3.10	3.40	↑	3.23
	保護者	3.50	—	3.50	3.40	—	3.40	3.20	△	3.40

↑：向上    △：下降    —：同値

## 令和5年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 保護者アンケート結果

回収率 70%

番号	評価内容	今年度	昨年度	小学部	中学部	高等部
<b>1 教育活動</b>		<b>3.6</b>				
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.6	3.5	3.6	3.7	3.5
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.6	3.5	3.6	3.7	3.6
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.6	3.5	3.6	3.7	3.6
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.5	3.3	3.4	3.8	3.5
5	学校は、児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.6	3.4	3.5	3.8	3.5
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.6	3.5	3.6	3.8	3.5
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.5	3.5	3.5	3.7	3.5
8	学校は、「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.6	3.7	3.6	3.8	3.6
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.6	3.5	3.6	3.8	3.5
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.5	3.5	3.5	3.8	3.5
11	学校は、基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.6	3.5	3.7	3.7	3.5
12	学校は、児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.5	3.4	3.6	3.7	3.4
13	学校は、児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.6	3.5	3.7	3.8	3.5
14	学校は、児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。	3.6	3.5	3.6	3.8	3.5
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.6	3.4	3.6	3.8	3.6
16	学校は、児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。	3.5	3.4	3.4	3.5	3.6
17	学校は、児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.4	3.3	3.2	3.6	3.4
18	学校は、いじめが起きにくいいじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5
19	学校は、現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.4	3.5	△	△	3.4
<b>2 教育環境</b>		<b>3.4</b>				
20	学校は、安心・安全な施設・設備が整っている。	3.4	3.3	3.3	3.5	3.4
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.4	3.4	3.3	3.4	3.5
22	学校は、校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.4	3.3	3.3	3.5	3.4
<b>3 開かれた学校</b>		<b>3.3</b>				
23	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.3	0.0	3.3	3.6	3.3
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.2	3.2	3	3.6	3.1
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.4	3.3	3.3	3.6	3.3

# 令和5年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 教職員アンケート結果

回収率 97 %

番号	評価内容	今年度	昨年度	小学部	中学部	高等部	事務室
<b>1 教育活動</b>		<b>3.5</b>					
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.6	3.4	3.6	3.7	3.6	3.9
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.5	3.4	3.4	3.8	3.4	3.9
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.5	3.4	3.5	3.2	3.5	4.0
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.4	3.2	3.3	3.2	3.4	4.0
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.5	3.3	3.4	3.3	3.6	4.0
6	自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.5	3.3	3.4	3.3	3.5	4.0
7	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.3	3.2	3.4	3.1	3.3	4.0
8	「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	4.0
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.6	3.5	3.5	3.6	3.6	4.0
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.4	3.2	3.5	3.2	3.3	4.0
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4	4.0
12	児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4	4.0
13	児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.5	3.5	3.6	3.5	3.4	4.0
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	3.5	3.5	3.5	3.2	3.5	4.0
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.4	3.3	3.4	3.3	3.4	4.0
16	児童生徒の成長に合わせて将来を見通した進路指導をしている。	3.3	3.3	3.2	3.1	3.5	4.0
17	児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.3	3.2	3.1	3.2	3.4	4.0
18	いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.6	3.5	3.7	3.4	3.6	3.8
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.6	3.4			3.6	
<b>2 教育環境</b>		<b>3.3</b>					
20	安心・安全な施設の整備に心がけている。	3.5	3.4	3.5	3.3	3.6	3.7
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.2	3.3	3.2	3.1	3.2	3.7
22	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校作りに努めている。	3.1	3.1	3.1	3.2	3	3.7
<b>3 開かれた学校</b>		<b>3.4</b>					
23	学校公開など、地域の人々が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.4	3.2	3.4	3.4	3.4	3.7
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.3	3.0	3.3	3.1	3.3	3.8
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.5	3.3	3.5	3.4	3.4	3.8

学校評価（小学部自己評価）

重点目標	総合評価	成果	課題
①生活のリズムや生活習慣の形成を図るとともに、身の回りのことを自分でしようとする態度を育てる。	4	低学年では、トイレや着替えなどの身辺処理の技能が身に付き、身の回りのことを丁寧にやる様子が見られた。学校の食具を使って、食べることができる児童が増えたり、偏食のある児童が少しずつ食べられるものが増えたりするなど、食事面の伸びが見られた。	中学年、高学年では服の畳み方や手洗いなど身に付いたことが、雑になる場面があった。生活の中で自然にできるようになるまで丁寧に指導していく必要がある。
②周囲の人と関わりながら、自分の気持ちを表現したり、伝達したりする力を育てる	4	各学級、学級としてのまとまりが出てきて、教師や友達にサインや言葉で要求を伝えようとする場面が増えた。帰りの会で、一日の振り返りの発表や質問することに繰り返し取り組み、自分の気持ちを表すことが増えた。自立活動で他者の気持ちや適切な断り方などを学び、友達とのかかわりの中でのトラブルが減った。	他害やつば吐きなど友達や教師へ不適切なかかわり方をしている児童について、行動要因を探るとともに引き続き粘り強く指導していく。
⑥自分でできることと難しいことに気づき、できることはできるだけ自分でしようとする態度を育てる。	4	教室環境を整え、朝の準備の流れをルーティン化したことで自主的に行動する児童が増えた。事前の約束やタイマーの使用などの手立てで活動に集中できる時間が伸びた。高学年では、教えて全てを教えず、授業の中で試行錯誤する場面を仕組むことで、自らの力で取組んだり、教師に助けを求めたりすることが増えた。	情緒や心理面での不安定さから、できることに取り組めない児童がいる。環境を整え、必要に応じて外部機関とも連携しながら、適切に支援していく。

学校評価（中学部自己評価）

重点目標	総合評価	成果	課題
毎日規則正しく健康的な生活を行い、身辺処理能力を確立し、みんなと一緒に行動できる望ましい生活の仕方と習慣を育てる。	3	タブレットなど好きな活動をしていても次の活動を提案した際に気持ちを切り替えて取り組めるようになりつつある。	教室の移動や次の授業の準備など時間を意識した行動に課題がある。
自分は大切にされていると感じ、他の人を大切にするために、その考えや気持ちをよく聞き、併せて自分の気持ちや意見を表す力を育てる。	3	自分から挨拶をする様子が見られるようになり、挨拶を返したりするようになってきた。友達への優しい言葉掛けや教師や友達からのアドバイスを受け入れられるようになってきている。	挨拶や返事の声の大きさや普段から関わりが少ない人、初めての人などに対するコミュニケーションに課題がある。
得意なことを見つけ苦手なことや努力すれば達成できることに挑戦しようとする逞しい心や態度を育てる。	4	不安なことが原因で不穏な行動になることがあった生徒も事前対処を身に付けることで落ち着いて過ごすことができていた。また、不適切な手段で他者の注目を集めていた生徒も苦手なことも頑張って注目を集めるなど適切な手段を身に付けつつある。	一時的ではなく、継続的に指導していく。

学校評価（高等部自己評価）

重点目標	総合評価	成果	課題
①基本的な生活習慣を確立しつつ、一方で一人一人の将来の生活を想定した、それぞれの課題に対する自分なりの解決方法を身に付けさせる。よりよい家庭生活を送るために必要な知識や技能の習得を図り、実際の生活に生かそうとする態度を育てる。	3	周りの様子を見て気づき、行動できる生徒やイラストなどの視覚的な表示を増やすことで、自分から挨拶や報告をすることができている生徒、持ち物や準備物など、黒板に掲示することで、自ら準備できる生徒など、主体的に行動できる生徒が増えた。	うがい、手洗い、汗の処理等、よりよい生活を送るための体調管理については、教員の方から言葉掛けをすることが多かった。うがい、手洗いをする回数は増えているが、雑になることもあり、行動と体調管理が結びつかない生徒もいる。
②集団の中で役割を果たしたり、仲間や周囲の人々と協力・協調したりしながら、社会参加を図るために、責任ある行動をとろうとする態度を育てる。	4	宿泊学習、鶴南まつり等の行事での場面や、作業学習、校内実習、現場実習等の働く場面において、それぞれの役割を果たして活動することができた。また、学んだことや経験したことを学級内でも挨拶や協力すること等、日常的に生かそうとする様子が見られるようになった。	人の前に立つ場面など、自立つ場面では積極的に取り組めることが多いが、自立しない場面でも自分の役割を果たすことができるよう、継続して指導していく。 暗黙の了解など、見えないルールに悩み、情緒不安定になる生徒が多かった。今後、支援方針を再検討していきたい。
⑥得意なところをさらに伸ばし、苦手なことを主体的に改善・克服するための知識や技能を身に付けるとともに、態度や習慣を育てる。	3	自立活動の時間の指導において、友達の意見や様子から、自分自身の課題に気付くなど、グループ活動で刺激し合えた。 毎日の活動を振り返り、自分の長所や課題、課題の解決方法を考え実践することができた。	自分の考えや思っていることを表出することが難しい生徒が多いので、必要に応じて言葉掛けを行い、必要な支援について担任同士で指導の工夫をしながら取り組んでいきたい。

- 4:十分達成している
- ・目標に対して具体的な方策が順調に終了し、当初の成果が得られたと判断される状態
  - ・目標に対して具体的な方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態
- 3:おおむね達成している
- ・具体的な方策を実施中であり、漸次その成果を検証しつつある状態
  - ・改善に向けて共通理解をもち、具体的な方策を実行している状態
- 2:どちらかというと達成されていない
- ・改善に向けて共通理解をもち、具体的な方策の実行に着手しつつある状態
  - ・改善の必要性に対して理解があり、具体的な方策に対して取り組もうとしている状態
- 1:ほとんど達成されていない
- ・改善の方向性はもっているが、共通理解が十分ではなく全体として停滞している状態
  - ・問題意識をもってはいるが、改善の方向性を探っている状態

## 学校評価（教務部 自己評価）

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、具体的な教育計画を企画・立案し、効果的な教育活動を推進する。	学習指導要領に基づき、児童生徒の実態に即した系統性・一貫性のある教育課程の構成に向けて、学習計画表を活用したカリキュラム・マネジメントの充実を図る。	3	○教育課程等の全体説明会で、学校全体に共通する事項について確認を行い、学習指導要領に基づいた授業計画や評価につながるように説明したことで、学習計画表を基にした学習活動の共通理解や、評価時に評価基準一覧表を活用することへの理解が高まってきた。 △アンケート調査を行い学習計画表について、先生方が抱える活用の難しさを感じていることが分かったため、今後様式や運用の仕方等について検討していく。
	儀式等の企画運営、行事や時間割等の連絡調整を行い、教育活動の円滑化と情報発信に努める。	3	○ポータルを活用し、職員会議後の行事予定の変更や追加についての周知を図り、おおむね滞りなく行事等を運営することができた。また、儀式的行事等の企画では、コロナの5類移行を受けて、二学期の終業式からは体育館で一斉に実施するように計画するなど状況に応じて対応している。 △情報発信の啓発が足りなかった。「行事等」だけではなく、「授業風景」などもホームページに掲載していけるよう呼び掛けていきたい。
教務事務的的確・迅速な処理に努め、連絡調整を行い、教育活動の効率化、円滑化を図る。	校務支援システムについて、計画的に入力作業を進めるとともに、校務支援システム担当を置き、教職員の相談・支援を行うことでシステムの運用の定着化を図る。	3	○個別の指導計画作成等において、校務事務支援システムからの出力を行うよう担任の先生方へ声掛けを行ったことで、個別の指導計画や通知表の入出力をシステムを活用して行うことが定着してきた。 △システムに接続し、15分以上作業を行っている、セキュリティの面から自動的に切断されるため、データの保存ができていない状況があった。こまめな呼び掛けをして、周知徹底していきたい。また、今後年度処理や新転任者等への説明などスケジュール調整と先生方への声掛けが必要である。

## 学校評価（研究部自己評価）

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
学校の教育実践から生じる課題を焦点化した実践的な研究を推進する。併せて、幅広い意見や指導に関わる理論、技術等の向上を目的とした現職教育を推進することにより、教職員としての指導力の向上と資質の向上を図る。	【校内研究】※主として部研 自立活動の指導力向上・授業改善に向け、教職員の課題を踏まえた研修を実践したり、授業実践とのつながりを意識して事例検討を行ったりしながら、研究を進める。	3	○事例検討を通して、自立活動の流れ図に示された手続きの理解を深めると共にアンケートを実施し、教員が課題や悩みの聞き取りを行い、拡大研究会へつなげることができた。 △十分に事例検討できる時間を確保するための計画検討に時間がかかり、各月の研究方法の職員への周知が遅くなった。
	【校内研究】※主として拡大研究会 自立活動部、教務部と連携を図り、多角的な視点で学校の状況を把握し、適宜、研究の方法等の改善を行う。	3	○今年度は6回の拡大研究会を開催し、自立活動部、教務部、教育支援部と「実態把握」をキーワードに個別的教育支援計画と個別の指導計画との関係性を整理したり、障害特性等、行動の背景にある実態を把握する手続きについて検討し、次年度からの実施に向けた調整ができた。 △拡大研究会を経て、各分掌内での検討を進めてもらう時間の確保が十分でなかった。
	【現職教育】 他部体験研修を実施し、対象者が他部の指導に関わることで本校教育の一貫性を図るとともに、キャリア教育の充実を図る。	2	△対象者への呼び掛けは行っているが、学部や学級の状況から実施できていない教員がほとんどである。以前の校内研究からの取組が形として残っているため、学校の現状、目的と対象者を検討し、次年度に向けて実現可能で有意義な研修の形を検討していく。

## 学校評価（生活部自己評価）

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
基本的な生活習慣を確立させ、自立的な生活ができるようにする。	自立した生活を目指し、社会の決まりを守ろうとする意識を高める指導に努める。	3	○高等部では、現場実習などの対外的な行事を中心に頭髪や服装などの指導に継続的に取り組んでおり、意識が高まってきている。 ○長期休業前には、学部集会やクラスなどで休業中の生活についての話し合い、規則正しい生活を意識したり、家庭での手伝いなどの意識を高めることができた。 ○学部集会では、児童生徒会が中心となって、いじめについて考えたり、レクリエーション活動に取り組んだりすることで、互いが尊重し合いながら楽しく活動に取り組むことができていた。
安全な学校生活を送ることができるように、計画的、継続的に安全指導を行うとともに、不測の事態に備える。	災害に際して指示を守り、安全な行動及び態度がとれるようにするとともに、安全点検・対応マニュアルなどの充実を図り、安心して学校生活を送れるよう努める。	3	○捜索訓練、火災避難訓練、地震避難訓練、シェイクアウト訓練、消火器・消火栓・拒害使用法研修会に取り組んだ。地震避難訓練では、マニュアルを見て避難してもらうことで、マニュアルの活用や改善につながった。アンケートでは、確認するいい機会になったとの声が多かった。 ○ガラスの飛散など物が散乱している状況を設定し、訓練を実施したことで、先生方が声を掛け合いながら避難する様子が見られた。 ○備蓄品についての見直しを行った。順次必要な物を揃えていく。 △非常持ち出し袋を生徒全員が準備できるように、保護者への案内を工夫していく必要がある。 △地震避難訓練アンケートなどでの先生方からのご意見や消防士からのご助言を受け、危機管理マニュアルの改善をしていく必要がある。
通学指導の徹底を図る。	通学指導においては、乗車マナーや交通ルールを守りながら、安全な登下校ができるようにする。	4	○小学部では、交通安全教室を実施することで、交通ルールの意識を高めて校外学習を実施することができた。 ○校外学習などの学習にあわせて、交通機関での乗車マナーや交通ルールについて学習に取り組むことで、日頃の登下校においても乗車マナーや交通ルールを守ることができている。
校舎内外の美化に対する意識の高揚を図る。	日常的な掃除を徹底し、定期的に大掃除を実施し、美化に努める。	3	○各学部に掃除場所の割り振りを行い、週末や学期末、行事前などに児童生徒と一緒に掃除に取り組み、校舎内外の美化を保つことができた。 ○夏季休業中の職員清掃や各行事前の清掃活動を計画することで、安全できれいな環境を保つことができた。 △夏季休業中の職員作業では、作業期間や時間設定の見直しや道具の充実などが必要である。 △校舎の老朽化により、危険な箇所がある。

学校評価（文化庁自己評価）

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
①児童生徒の豊かな心情を育てるために、文化的行事の計画や立案、読書活動の推進を行う。	①文化的行事を計画立案・実践し、児童生徒を文化的行事に触れさせる。 ②児童生徒の実態に応じた図書購入、季節に合った図書の紹介、読書集会での読み語りなどを行う。	3	○鎮南まつりは、今後も児童生徒一人一人の練習や発表の時間を確保し、保護者や関係機関の方々にもゆくりと見て頂けるように、小中学部と高等部に分かれて実施することになった。今年度も、発表の場があったことで、児童生徒のやる気と自信につながった。また、コロナ禍で実施が難しかったお店体験を実施し、買い物や販売の体験、児童生徒同士の交流や関わりが広がる機会となった。 ○すべての学部で、読書活動において、他部の読書集会や本に親しむ機会、図書室利用が増えた。 △読み聞かせや読書週間については、時期や実施方法について検討、工夫が必要である。(小中学部は一緒に実施する点、高等部は、生徒会役員選挙の運動期間と重なり、日によっては生徒の参観が難しかった。)
②学習活動の成果を総合的に生かした発表の場を設ける。	③児童生徒の作品を校外に展示したり、ホームページに掲載したりして発表の場を設ける。	3	○夏休み作品展、まつりの作品展などを通して、他部の児童生徒の作品を見たり、触れたりすることができ、今年度も児童生徒はお互いに刺激になっている。 ○作品のHPの掲載については、実施期間中の早い時期に掲載することができた。 △鎮南特別支援学校作品展は、本校の教育に対する理解も各分校、分教室で十分にできており、時津分校や西被袴分教室の担当者と確認し、廃止することになった。来年度以降については、本作品展に代わるような、学校内外での作品展の方法を検討、工夫していく。(今年度は、ホテルセントヒル長崎より依頼があり、作品展を実施した。)

学校評価（保健体育部自己評価）

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
①児童生徒一人一人の実態に応じた運動を経験させ、体力の向上を図る。	・体育の授業や行事等を通して、運動する楽しさと技能の向上が図れるように努める。 ・児童生徒の安全に配慮した教材教具の適切な使用に努める。	3	△運動会・体育祭は、学部ごとに開催方法全般(スローガンの設定、種目時間、昼食、下校時間など)を見直ししていく。 △高R&W大会実施後、来年度の実施方法の検討に入る。
②保健の授業や集会の活動を通して、健康の保持・増進を図る。	・歯磨き、うがい、手洗い等の習慣化を通して、健康や安全への関心を高めさせる。 ・保護者や関係機関との連携を深め、児童生徒の生涯にわたる健康の保持増進に努める。 ・検温や消毒等、感染拡大防止対策を十分にを行い、児童生徒が安心して生活できる環境づくりに努める。	3	○小中学部、フッ素洗口を再開した。 ○高熱発症者は、今後も0課休養室で別室対応をしていく。 △てんかん発作時の座薬挿入/プログラム投与のための校内体制について検討中。今後、研修会も実施予定。
③児童生徒の望ましい基本的な食生活の習慣の形成と、好ましい人間関係の育成を図る。	・食べる楽しさと食事のマナーを習得できるよう指導に努める。 ・児童生徒の実態に応じた栄養管理に努める。	3	△来年度のアレルギー対応委員会の開催方法について、検討していく。 ○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、感染症対策を見直した。

学校評価（進路指導部自己評価）

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
①児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てるために、本校のキャリア教育を推進する。	①キャリア教育を組織的に位置付け、学校として一貫性のある指導を実現させるため、「キャリア教育に関する全体計画」を推進する。	3	○学級経営案とキャリア教育全体計画をリンクさせ、各クラスの実態に応じた学級経営目標を設定することができている。 ○学期ごとに評価、反省をすることで、切れ目のない指導を実現している。 ○学級経営案とキャリア教育全体計画をリンクさせていることで、小学部段階、中学部段階、高等部段階での「育てたい力」を育成することができている。 △情報面に関する児童生徒、不登校の児童生徒に対しては、計画的、継続的なキャリア教育の推進が難しい。
②児童生徒一人一人の願いや特性に応じた進路指導を行う。	②各部懸談や進路相談、ホームページ等を通して、卒業後の生活や進路に関する情報や資料の提供を行う。	3	○定期的な懸談を実施し、必要に応じて資料等での情報提供を行うことができた。 ○「進路の手引き」を各家庭に配付し、ホームページにも掲載した。卒業後の進路を具体的にイメージできる情報提供を行うことができた。 ○定期的なホームページ更新し、進路に関する情報提供ができた。 ○進路説明会の資料を高等部全家庭に配付した。 △ホームページアクセスできない家庭へは、資料等による担任からの情報提供が必要である。 △頻りにホームページ更新することは難しかった。
	③児童生徒及び保護者の願い等を把握し、適切な進路指導に努める。	3	○進路希望調査や個人懇談によって、児童生徒及び保護者の願いを把握し、願いに応じた情報提供及び進路指導を実施することができた。 △高等部3年生10月の現場実習(進路希望先)後に進路希望先の変更があったため特別実習を実施し、進路先を再検討するケースがあった。 △進路先として長崎市南部の生活介護事業所を希望する家庭(事業所への送迎の関係)があるが、長崎市南部には生活介護事業所が少ない。
	④関係機関との連携を密にし、事業所や企業訪問を積極的にし、進路の新規開拓や卒業後の進路指導に努める。	3	○関係機関と連携し、進路の新規開拓を行うことができた。 ○必要に応じて事業所及び企業訪問を実施し、進路の新規開拓や卒業後の進路指導を行うことができた。 △満足となるグループホームや入所施設が多く、生活の場を検討しなければならない生徒の、選択肢が少ない。

学校評価(教育支援部自己評価)

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
校内の支援体制を整え、指導・支援の充実を図る。	児童生徒や家庭等の課題解決に向けて、ケース会議や支援会議、相談等の企画・調整を行い、校内支援の充実に努める。	3	【ケース会・支援会議】 ○学校が主催で、ケース会や支援会議を開く際は、事前に話し合いの目的、方向性、流れなどを参加するメンバーで確認し、担任に必要な情報をまとめてもらったり、支援部で会の流れをリスト化したりしておくことで、必要な情報共有や、役割分担をしやすいかった。 △外部発債の支援会議で、目的や来校者などが分かりづらいケースがあった。支援部の方で、日時や来校者、目的、誰が進めるのかなどの情報をまとめていけるようにしたい。 ○本人だけでなく、家庭も含めた支援が必要なケースもあり、ケース会等を通して、役割分担をして、SSWの先生には関係機関とのつなぎ等を行っていただいた。次年度に向けて、より早期に気付きを校内で共有し、チームとして必要な支援を考えられる体制を作っていくたい。
各種相談・各種検査・記録活用・個別の教育支援計画関連等について、企画・調整・推進し、一人一人に「応じた教育支援や保護者との連携の充実を図る。	個人相談や各種相談等の企画・調整を行い、相談内容に応じた資料や情報の収集・提供に努める。 個別の教育支援計画の策定や活用に関する校内システムの整備に努める。	3	【個人相談】 ○今年度、1学期の個人相談を短縮日課にしたことで、複数の担任で、保護者の思いをじっくり聞いたり、資料をまとめたりすることができた。次年度は、3学期も一部短縮日課にすることで、複数の担任で、保護者とよりよい連携が図れるようにしていく。また、放課後に担任の先生方が資料をまとめる時間を設定していきたい。 【個別の教育支援計画】 ○拡大研究会の中で、研究、教務、自立活動部とともに、個別の教育支援計画の実態把握の方法や内容、把握した情報の活用について検討をした。研究部を中心に見直しをする機会や、説明会・意見交換の場を設けてもらったことで、先生方と合意形成を図りながら、課題に対して検討すべきことを考え抜くことができた。

学校評価(情報教育部自己評価)

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
ICT機器や視覚覚醒機器を整備・管理し、教育活動や学校業務への有効な活用を図る。	ICT機器や視覚覚醒機器の管理の徹底を図る。 校内ネットワークの有効な活用の仕方を探り、学校業務の円滑化を図る。 校内外の研修を通して、職員がICTを活用した指導力や情報処理機器及び視覚覚醒機器の操作技術の向上を図る。	3	○機器の管理については、先生方の貸し出し簿の記入など徹底することができた。 △生徒用端末の不足分が県からまだ届いていない。 ○一人一台の指導者用端末を使って授業することが増えている。 ○1月にICT活用、情報モラルの研修会を実施できた。
情報セキュリティに関する管理要綱等の整備・管理を行い、職員へ周知徹底をする。	ICT機器や視覚覚醒機器及び情報セキュリティに関する管理要綱等の整備・充実に努め、教育活動や学校業務に有効に活用できるようにする。	3	○長崎県立学校情報セキュリティを意識して業務に当たることができている。 △持ち帰り端末の申請が遅くなることがあるので、早めの申請を行うようにする。
メディアを活用した広報活動に努め、本校の教育活動の理解啓発を図る。	学校ホームページの内容の充実に努め、より効果的な活用の仕方を探る。 本校における教育活動の記録を収集・整理し、広報活動に活用できるようにする。	3	○ホームページをそれぞれの分掌や係で申請することができている。 △活動の様子など、もう少し、ホームページにアップロードし、本校の様子が伝わるようにしていきたい。

学校評価(自立活動部自己評価)

重点目標	努力点	総合評価	成果(○)と課題(△)
①本校における自立活動の充実に努める。	・各部門、分掌部門で連携しながら、個々の児童生徒の障害の特性等を把握するためのアセスメントを充実させる。	3	○全校研究と関連付けて情報整理シート記入についての研修会を実施し、個別の指導計画作成に関する共通理解を図ることができた。 ○実態把握チェックリストの実施時期や回数について研究経過報告会で提示した。 △次年度から使用する情報整理シートの書式及び記入方法の分掌部内での検討が予定より遅れた。今年度中に全体に提示する予定である。
②児童生徒の障害の特性等に応じた自立活動の指導内容・方法等について、実践を深めるとともに、自立活動に関する専門性の向上に努める。	・自立活動の個別の指導計画作成に関する研修会、外部専門家の指導助言を活用した授業改善、他部の授業見学を通じて、自立活動の指導に関する専門性を向上させる。 ・自立活動の指導方法や教材に関する情報提供を行う。	3	○外部専門家の指導助言については、対象生徒の指導方法を見直したり教師の変容を察したりすることができた。 △他部への授業見学者がほとんどいなかった。見学へのニーズが低い、時間が捻出できないなどの理由が考えられる。次年度は見直しを図る。 ○長期休業中を活用し、ポータルサイトを通じて自立活動の指導方法や教材に関する情報提供を行うことができた。

<p>4: 十分達成している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に対して具体的方策が順調に終了し、当初の成果が得られたと判断される状態</li> <li>・目標に対して具体的方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態</li> </ul> <p>3: おおむね達成している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的方策を実施中であり、漸次その成果を検証しつつある状態</li> <li>・改善に向けて共通理解をもち、具体的方策を実行している状態</li> </ul> <p>2: どちらかというと達成されていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善に向けて共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある状態</li> <li>・改善の必要性に対して理解があり、具体的方策に対して取り組もうとしている状態</li> </ul> <p>1: ほとんど達成されていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善の方向性はもっているが、共通理解が十分ではなく全体として停滞している状態</li> <li>・問題意識をもってはいるが、改善の方向性を探っている状態</li> </ul>
---